

バス托ス週報

水紋

19

深刻な課題 —養鶏家へ警告—



35

前週の本誌に、京野四郎州議の「バ
ス托スの植樹預地将来について」という
のつていろので、大方の諸賢は既
に御覽になつたものと思ふ。京野州議の
文章は、バス托スの農産物は第三期棉花
時代、第二期養蚕時代、第三期養鶏時代
と、その都度全盛の波にのり、その末期
は無惨な邊の崩廃ぶりをみた。即ち棉花
は奪掠農業のため土地荒廃に帰したの
で、柔くらか出來ぬため、養蚕に移
行したのである。

養蚕も大戦中は好況だったが、終戦後
恐慌に陥り、バス托ス人は浮き
沈みになつてしまい、安値で土地を手放し
ムダんサしてしまつたので、一千もあ
った農家は五百に減つてしまつた。また、
養蚕産後はバス托スを救つたのは、
養鶏である。バス托スが今日晦隆盛
を作り出し、経済力を産み出したのは、
養鶏のおかげであるが、一昨年來の養鶏
不況は、深刻な見舞を受け、このまま
では折角の養鶏も壊滅の一途を辿るのでは
ないか、というのが論旨である。

一本建か二本建か

京野氏の論旨の中に、聖市郊外の養鶏
と蔬菜の三本建を、といつてし
本建だと指摘している。中にはポン力
ンを栽培して二本立てをとつている業者
があることはあるが、大部分は防墻がう
り、現存価値が上昇していろからしい
ものでもあるまいし、飼料の攻撃は絶え
ず脚下を洗う波のように迫つて来ている。
一旦卵価の下落をみると、赤字養
鶏業者は、それそれ熱慮をめぐらして
居られるだろうが、一人一人の対策もこ
ることながら、全バス托ス的な産業再建
討論運動を起さなければならぬだろう。
鶏は所詮逃れぬ運命にあるだろう。
養鶏業者は、それを熟慮をめぐらして
居られるだろうが、一人一人の対策もこ
ることながら、全バス托ス的な産業再建
討論運動を起さなければならぬだろう。
文化団体は親睦団だから、そうした
方面にはタツチしたくなかったかも知れないが
うのろしを挙げ、勝びかけてもういたい。

WAKAMOTO

LONGA VIDA COM SAUDE
ENZIMAS + COMPLEXOB + MINERAIS



化粧品なら世界の
水準を抜く
ワカモト化粧料と御名下さい

わかもと製薬株式会社

二本建でも三本建でも、しっかりと
支柱を考えなければならぬと思う。柑橘
組合を結成して、ポンカン栽培を奨励し
ようという運動が起つてあるようだが
リ期待がもてたまうな感じがする。余
りポンカンに対する京野氏の報告は、余
りバス托スの篠農家数氏が、バス托ス
に柑橘のジユース工場建設運動を起し、
京野氏が働きかけ、また苗木業者数氏も
同じようにジユース工場建設を聯邦政府
に申請しているが、パウリスタ線地
力ンク口、シトリコの危険地帯であつ
て、同病の国際的対策の見地からは、技
術的にも、バス托ス一郡だけを解放する
のは困難であるというので、未解決の但
にたつていると、京野氏は報告している
のである。

京野氏は農林省植物保護課長及び農
業技術と協議の結果聖市生物研究所で四
月三日協議会を開くことになり、現地代
表として、小林平行弁護士が出席した。
次いで第二回を四月十八日同研究所で開
いたが、同所の力ンク口対策委員長、力
ンビーナス農事試験技師など技術陣に、

第1198号
昭和四八年
五月七日
月曜日発行
Editor
Koiti Mori
Redator
Shion Oda
Rua Pres
Vargas 188
C.Post; 122
Fone; 40
Bastos
C. P.
Anual
Cr. #
30.00
Adiant.

SUPERAGI

です。

料味の最高



SUPERAGI
GLUTAMOTO
MONOSODICO
99%

株式会社 藤原貿易速輸

株式会社 協和醸造工場 製造元 東京

Pg

バスストスから山中市長、森重市会議出席長、蜜柑ジュース工場建設をバスストスに設置の可否について討議が行われた。○京野氏も技師たちの討論を勧かすことは出来ず、バスストスの衆知が第一、第二の危機を撃破したように、こんども四十五年の遅しい農魂を燃やして、現在の危機打開と取組んでもういたいと、京野氏は結んで居られる。

以上の経緯からみると、バスストスに密接なシナジー工場設置は、専門家の賛成を会得することはできなかつたが、ポンカン栽培でなくてならぬというわけではない。ある政治力でバスストスだけを力強く口から聞かせつゝことはむずかしいが、協同の力を借りて防衛することが出来ないことはできない。もしポンカンを以つて、バスストスは勿論、アゲロノモと連絡して意見をきくことが大切である。

アバカシー栽培も現在の処では、採算がとれないとのことだが、これらも各業者の管理情態や管理方法の詳しい結果報告をきかなければ「只だめだ・だめだ」という漠然たる声だけでは参考にはならぬ。バスストスから山中市長、森重市会議出席長、蜜柑ジュース工場建設をバスストスに設置の可否について討議が行われた。○京野氏も技師たちの討論を勧かすことは出来ず、バスストスの衆知が第一、第二の危機を撃破したように、こんども四十五年の遅しい農魂を燃やして、現在の危機打開と取組んでもういたいと、京野氏は結んで居られる。

以上の経緯からみると、バスストスに密接なシナジー工場設置は、専門家の賛成を会得することはできなかつたが、ポンカン栽培でなくてならぬというわけではない。ある政治力でバスストスだけを力強く口から聞かせつゝことはむずかしいが、協同の力を借りて防衛することが出来ないことはできない。もしポンカンを以つて、バスストスは勿論、アゲロノモと連絡して意見をきくことが大切である。

アバカシー栽培も現在の処では、採算がとれないとのことだが、これらも各業者の管理情態や管理方法の詳しい結果報告をきかなければ「只だめだ・だめだ」という漠然たる声だけでは参考にはならぬ。バスストスから山中市長、森重市会議出席長、蜜柑ジュース工場建設をバスストスに設置の可否について討議が行われた。○京野氏も技師たちの討論を勧かすことは出来ず、バスストスの衆知が第一、第二の危機を撃破したように、こんども四十五年の遅しい農魂を燃やして、現在の危機打開と取組んでもういたいと、京野氏は結んで居られる。

"SALVE DIA DOS MÃES"

Auto Distribuição

Rua. Pres. Vargas 240 Fone: 108

コチア産業組合バストス倉庫購売部

ルア・ブレンジデンテ バルガスニ四五

電 話 一〇八番

贈答用品、一般家庭用品、食料品
学用品、その他 衣類、雑貨類

アグロノミコドリイブラン

五月十三日は母の日です
お母様へのプレゼントのお買物は当店を
ご利用下さい



母

○ 今から二十七八年以前養蚕業者を苦しめたものに、微粒子病という始末に了えぬ蚕病があつた。この病気はもと、養蚕王国といわれ、生糸生産高世界一を誇つタリア全土の養蚕を壊滅せしめ、支那の蚕養蚕滅亡に陥し入れ日本に侵入して、日本の養蚕界絶望におとし入れたのが大正の中頃であつたといふ。

この病気は遺伝性のもので、上篠ごろ地帶にシユース工場は不備との結論であります死ぬのもあつた。これは、産卵を了えた歯の雌雄共頭微鏡で調べ、微粒菌を発見すれば焼却するやうに駆除に成功している。これはブラジル農業会社の功績と見えるであろう。

○ ここ二年ばかり前から蜘蛛にサビ病めが发生、力フエ地帯を襲つてゐる。蜘蛛はブラジル農產品の大害とあつて、政府

上昇を見れば、養鶏業急増するが、城張による需要が起るのは必至である。需要が飽和状態に達すれば、値は停まり、荷物の別打儲けとしうものはあり得ない。かりに卵価が上昇すれば、飼料が追従病源も、ある程度駆除に成功してゐる。此の後の傾向といわれる。(ここまで系音)

○ 力シク口、シトリコは、どういう経路で伝染、或は発生するものか知らぬが、早期に発見して駆除する研究も、やつて不可能ともきまつていなかつた。日本でも山梨、愛媛などカンクロと闘ひながら、現在最優秀力蜜柑を生産して、県財政の片持を担つてゐるときく。故畑中仙次郎翁も常々柑橘類栽培を奨励され、柑橘類がバストス發展の礎となるであろう、と口癖のように云われていたが、けだし名言であろう。

バストスは、生物研究所のカンクロ病地帶にシユース工場は不備との結論であります待つことなく、アグロノミの学門的指導により、力シク口未発生に終始する決心がなくてはなるまいと思う。最後の稿宮武セイナで、アグロノミの赤信号に對処するたびに警戒されていふ。

終り

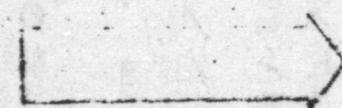


RACÃO Cargill

CRECE - AVES — RACAOES LTDA

Rua Presidente Vargas 341

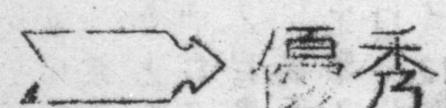
BASTOS



ラッシュン カルジウの

販売配給倉庫を設けました

◆養鶏家各位の御愛顧を御願い致します



優秀品質のニーリョ種子の予約註文引受けます

□ 桑原一山内共營 □

販売員参上の節は何卒宜しく御引見の程を御願い致します

p 9

恍惚の人

信利の歯の長議に若い社員は適当に答へて我慢としていたが、この態にいつかはい上司の繰り言の相手はここまでと自分で決めたのか、途中で態度を改めて富士に

ど。て、いなし。今日は早く帰つて家で、食を攝ると要に言つてあつたのを思い出した。歯の治療中は酒もうまくないからこう言つたのであつた。

都心のオフィス街では、積雪が舞つて、いるだけだつたが、地下鉄から上つて見ると、目の前の歩道には、うつすらと雪が積もつていた。

一 次 長、判を頂きたいのですかし
信利は我に返つて若者を解放してやり
ながら、彼に歯の悩を訴えても理解など
できるわけがないのだと、自分の愚痴に
歯を立てていた。しかし私、こも私にて
も、かつて自分の父親が素人の手細工で
義歎を作り出したときの記憶が湧いて
くる。そんたものを作り方など書いた本
にもあつたのだろうか。来る日ち、来る
日も乳白色の歯を何本も作り、紅色の歯
をきを作つて組み合せ、それが大きすぎ
た、小さすぎたといつて、削つたり、粘
生細工のようにはり足して行つたのを、
福をしかめ、冷淡に横目で睨んでいたの
を思い出す。遂に歯を立てた茂造が、歯
が三十二本なければならぬと云う事は
左臣と雷出し、上も下も一枚歯にしてし
たことがあつたが、あのときは凄かつ
上ると、誰かす見せろの

眩いで、信利はまた唇をしかめたりは信利の好き取ものなのである。雪景色ほど美しいものは此の世いなしと彼は思つてゐる。その彼が靈を見た瞬間に不機嫌になつたのね、零力のに酒も飲めないのかと思つたからだつた。歯が、まろで此の世の悦樂をすべて踏みにじつぞしまつたようだと思ふ。彼は黙々と歩き出した。五日市街道に折れても車は無く行き交うが、道の端には雪が白い。

我家の家の近くに来て、信利はちまつと足を止めた。何か様子が違うのだ。見なれない小型車が門の前に止まつてゐる。玄関の扉には鍵がかかるといなかつた。家中にはなま暖かい。妻も子も居なく見て見て歸くまつていた。

ないどころか、めう」と曲面だけ見せたのつべらぼうが、唇を割って現われるのは、まったく薄気味の悪いものだつた。しかし、信利も今になつて歯の具合の様子に歯を立てる年寄りの気持は察しがつく。昔は父親の愚痴を、醜いと思つて

落き流して、いた自分が、若手社員を相手にして延々と歯の話をしているのだ「次長、判をお願いします」といった青年の中には、福利には手にとるように明らか

週休二日制という掛け声がかかりて、いざながなかなら方に、土曜日の残業といふものは大層不人気なものであった。本来なら休みの筈だと若い社員たちが思う一方で、古手の社員は習慣として土曜日に休むことが不安なのである。経営者も態度をはつきりとしないので土曜日の午後は残業といつても用がすめばさつこと挨拶なしで帰つてしまつた。近頃は上司が残つていいという不文律を作つてしまつた。近頃は上司が残つていいというので遠慮して付合う若者

信利は唯一一人になつた部屋の中で、そ
うそのビルの腰房が止まつたらしい気配
に驚いて腰をあげた。左手は頬の下で、
療中の歯を外側から撫で続けていた。
よく坐つていた割に、仕事は少しもはか

RACÃO DUTRA

前山商店

養鷄飼料部

販売部

藤武良文

ラッソングツトラキ

栄養の点で

養鶏危期を乗り切る優秀飼料
飼料を選びながるなり

ラジカル

飼料をう選びにねるなれ

經濟点でも

安ハして使用できる

前山陪宿

養鵝飼料部

賊亮音

卷之三

1973年3月分 バストスの気温と降雨量
株式会社 拓製部 測候部

項目 日	気温 °C	温計 °C	湿度 %	最高 気温	最低 気温	降水量 mm	風向	天候	雲量
1	32.0	28.0	69	33.0	21.0	29.5	E	○	3
2	30.0	26.0	68	35.0	22.2	22.5	NE	○	2
3	31.0	26.0	62	36.0	22.2	22.0	E	○	3
4	31.0	27.0	68	34.5	22.2	22.0	E	○	2
5	30.0	25.0	90	33.0	23.0	23.0	E	○	3
6	26.0	24.0	82	31.0	19.0	31.0	E	○	2
7	29.0	25.0	67	32.5	19.0	31.0	EN	○	3
8	26.0	25.0	96	34.0	22.0	86.6	E	○	2
9	28.0	23.0	94	29.0	22.0	20.0	S	○	1
10	28.0	22.5	92	29.0	21.9	10.0	SS	○	1
11	25.0	22.5	77	28.0	11.7	20.0	SS	○	1
12	25.5	22.0	58	30.0	12.2	20.0	SE	○	2
13	26.0	21.0	58	31.0	21.0	20.0	SS	○	2
14	27.0	21.0	53	32.0	22.0	20.0	SS	○	2
15	28.0	21.0	47	32.0	18.0	20.0	SE	○	2
16	29.0	22.0	48	32.0	16.0	20.0	E	○	2
17	30.0	24.0	55	33.0	11.8	20.0	EE	○	2
18	30.0	22.0	44	35.0	21.0	21.0	EN	○	2
19	28.0	23.0	60	34.0	21.0	9.5	W	○	2
20	27.0	24.0	74	34.0	22.0	8.8	WN	○	2
21	30.0	26.0	68	31.0	21.0	10.0	NN	○	2
22	27.0	25.0	82	32.0	21.0	21.0	W	○	2
23	24.0	22.0	81	30.0	21.0	0	W	○	2
24	25.0	21.0	65	30.0	18.0	0	OS	○	2
25	26.0	21.0	58	30.0	18.0	0	E	○	2
26	26.0	22.0	66	31.0	20.0	0	E	○	2
27	28.0	22.0	53	32.0	17.0	0	ES	○	2
28	29.0	22.0	48	33.0	16.0	0	SE	○	2
29	27.0	21.0	53	30.0	20.0	0	EW	○	2
30	25.0	22.0	73	31.0	21.0	0	W	○	2
31	26.0	21.0	62	30.0	21.0	1.0	E	○	2
合計	849.5	718.5	2043	3991.0	6245	7524			
平均	27.4	23.1	65%	31.9	20.1				

て見上り行なったが、何も言わずにまた元の姿勢になつた。信利は外套を脱ぎ、茂造が抱えこむようにしているものが何か覗きこんで呆れてしまつた。

「芋ですよ。人參もありますよ」

信利は外套を脱ぎ、茂造が抱えこむように手觸みで、食べていろ。

「昭子は帰つたよ。お父さん」

「ハイ、昭子さんですか、ほいほい」

「何呪へ行つたんです」

「婆さんのところへ行きましたよ」

「どうでござら、お父さん、さん」

「ものを見て腹をこわしたらどうするんです」

「そうですわ」

茂造は床に四つん這いになつたかと思うと、蜘蛛が踊るよう両手を上げて立つた。信利は中肉中背なのだが、父親の茂造は昔は六尺臺かな大男で、しかも首が細い。まるで影のよう長い四肢を伸すと、茂造は台所口に降りて履物を探して履いたが、それは怖ろしく緩慢な動作だった。

外から乱暴に戸が開いて、昭子が飛びこんできた。

「まあ、あなた帰つこうしたの」

「お嬢さんには亡くなつたんですよ、ずっとお爺いちやん、どうしてもっと早く言ひに来なかつたんですか！」あたし産の会社の電話番号は御存知だつたであります

「モシモシ、コクリコこんなですか？」

昭子は家庭用の電話機を繋り、ダイヤルを音をたててまわし始めた。

「お宅へ間つたでしきうか・どうですか、お隣隣でしたさしうよう・まあ、そんぬ間に？、別に変つた様子はありませんでありますか・ええ、帰つてさてすぐ倒れたう

「どうかしらのかし」

「お婆ちゃんが例れんんですね、すぐ先で、どうだつたんだい？」

「今お帰りになるところよ」

「行つて頑だい、あなた、すぐ、敏がいますけど」

「それから茂造に向つて屹として言つた」「お爺いちやん、どうしてもっと早く言ひに来なかつたんですか！」あたし産の会社の電話番号は御存知だつたであります

「どうしたんだい？」

「お嬢さんは亡くなつたんですよ、ずっとお爺いちやん、どうしてもっと早く言ひに来なかつたんですよ、あなたしてまわし始めたりました」

「モシモシ、コクリコこんなですか？」

昭子は家庭用の電話機を繋り、ダイヤルを音をたててまわし始めた。

「お宅へ間つたでしきうか・どうですか、お隣隣でしたさしうよう・まあ、そんぬ間に？、別に変つた様子はありませんでありますか・ええ、帰つてさてすぐ倒れたう

しいんですよ。ショールも外してなかつたんですよ。ええ、ええ、それが

うわづつた声で早口に喋り続けていろ

品子を後にしつて、信利が庭伝いに離れに離れて上つてみると、六畳の日本間に布団

が敷かれ、彼の母親が静かに寝かされて枕許の柱に肩をもたせて敵が胡座

かいていたが、父親を見てもほんやり

している。

ついだつたんだし

「今のかつき、お爺ちゃんが僕らんとこへ入つてきて、お婆ちゃんが起きないつて言うから来てみたら、そこんとこへ例れてたんだよ」

敏が小さな玄関のあがり框カウチを指説した。

つづく

（有吉佑和子著）

アルドフ・ビトラー（2）

『極秘文書』

数年前、彼はあらゆる美術の問題に関する最高審査機関として三人委員会を任命したが、専門家三人の決定が彼の好みに合わないとわかるや、さっそく彼らを解任して、自らその任にあたつた。そ

して自信にかけは、美術だけでなく、宣伝でも、映画でも、音楽でも、はては婦人の服飾にいたるまで、つねに彼自身が第一人者だった。あらゆる分野で、彼は解任して、自らその任にあたつた。そ

して自信が問題なく最高権威であると考

えた。彼は自らの仮借のなき、残酷

さにおいても、誇りに満ちていた。

ヒトラーが自らの偉大さをかたく信じていていた点については、疑いの余地はほととんどない。われわれは、その信念がどうかうきたのかを調べなければならぬ。

これまでほとんどの研究者が述べて來ていたのが、ヒトラーが占星術を信じていること、どんな行動をとるべきかについて、つねに占星術家の助言をきいていたこと、そこから自信を得ていた、ということである。

だが、それらの見方がまちがつていることは、まずたしかと言つてよい。ヒト

ラーケ親しく知つてゐたわれわれの情報提供者たちは、そうした見方を、ばかげているところとして一笑に付してゐる。そういうことである。

ヒトラーがいろいろの分野でかなりの読書をしていることは事実だが、そういふことは別に結びつかない。むしろ逆に、民衆の運命を導いてゆくという段に力あるとかのよう

たんですよ。ええ、ええ、それが

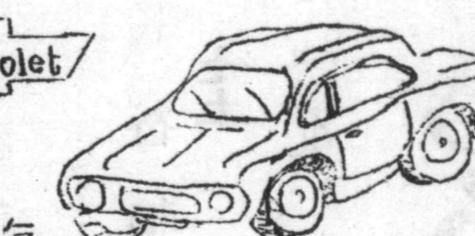
8

あなたの中古車を

ノーボと取り替えましよう

すばらしいボレと

オ・パ・ラ（高級車）



カミニオネッテ
好条件で差上げます
故、御相談下さい

毎週木曜日には

出張員 濑 尾 清

マルベル・マリリア・ベイクロス商会

Chevrolet

出張してあります

109

する最高審査機関として三人委員会を任命したが、専門家三人の決定が彼の好みに合わないとわかるや、さっそく彼らを解任して、自らその任にあたつた。そして自信にかけは、美術だけでなく、宣伝でも、映画でも、音楽でも、はては婦人の服飾にいたるまで、つねに彼自身が第一人者だった。あらゆる分野で、彼は解任して、自らその任にあたつた。そして自信が問題なく最高権威であると考えた。彼は自らの仮借のなき、残酷さにおいても、誇りに満ちていた。

ヒトラーが自らの偉大さをかたく信じていていた点については、疑いの余地はほととんどない。われわれは、その信念がどうかうきたのかを調べなければならぬ。これまでほとんどの研究者が述べて來ていたのが、ヒトラーが占星術を信じていること、どんな行動をとるべきかについて、つねに占星術家の助言をきいていたこと、そこから自信を得ていた、ということである。

だが、それらの見方がまちがつていることは、まずたしかと言つてよい。ヒトラーケ親しく知つてゐたわれわれの情報提供者たちは、そうした見方を、ばかげているところとして一笑に付してゐる。そういうことである。

ヒトラーがいろいろの分野でかなりの読書をしていることは事実だが、そういふことは別に結びつかない。むしろ逆に、民衆の運命を導いてゆくという段に力あるとかのよう

たんですよ。ええ、ええ、それが

8

うわづつた声で早口に喋り続けていろ

品子を後にしつて、信利が庭伝いに離れに離れて上つてみると、六畳の日本間に布団

が敷かれ、彼の母親が静かに寝かれて枕許の柱に肩をもたせて敵が胡座

かいていたが、父親を見てもほんやり

している。

ついだつたんだし

「今のかつき、お爺ちゃんが僕らんとこへ入つてきて、お婆ちゃんが起きないつて言うから来てみたら、そこんとこへ例れてたんだよ」

敏が小さな玄関のあがり框カウチを指説した。

つづく

（有吉佑和子著）

バストスの榮誉

谷口章氏の受章

春の叙勲者海外の部で、プラ拓製糸株式会社専務、谷口章氏が勳五等瑞宝章を授けられた。プラ拓製糸は、バストスを反映する大きな産業部門であるが、それを今まで育成したのは、谷口章氏の力であること云うまでもない。

製糸はこれまでバストスの産業といつた親があったが、ここ数年アラジル産業として眼光を浴びるようになり、広く世界有数の大綱として主導の上位にいるものであろう。

この原動力をなすプラ拓製糸をここ近代長させ、指導して来た氏の力は總領事館を強く動かし、今回の榮譽の推薦となつたものであろう。

谷口氏はバストス日伯文化協会々長を前後十年に及んで引受けられ、バストス移住地の推進力のためにも大きな役割を果している。因みに氏の受章は、故畠中氏に次いで、バストスで二入目である。

お知らせ

バザー御案内

日時 五月十二日（土曜日）

“十三日（日曜日）

場所 力トリコ教会横のサロン

皆様の御協力を御願いいたします。

知友の方をお誘いの上
おいで下さいませ

カテキヌタ

新らしい国家的宗教というものを、ヒトラーがその計画の一環として考えていたのか、それともことの成行き上、そうしたもののが実現するに至つたのかは、何とも証據がなくてはつきりわからぬ。だが、とにかく、ヒトラーが神に似た役割を演ずるのに何のためらいも困惑も感じなかつたのは事実である。

「ハイル・ヒトラー、われらの救世主よ」と挨拶されると、ヒトラーはかすかに会心しながら、ほくそ笑をかくさず、本当にその気になつた。とホワイトは報告してゐる。

時とともに、ヒトラーが自分を「えらばれたた」た「人のもの」と考へ、萬体糸を招來するため送られてきた。と考えていてることがますますはつきりとしきた。彼は、自分の顔をしたひとつもの像、つまり自分自身との恋に落ちたのだつた。

彼の使命は、彼をもつと高く高いところへいざなうもののようだつた。そのかぎりの救世主には満足せず、彼はもつと高い目標、つまり今後のドイツ民族の世代のために規範を確立する役目をもたなくことはなかつた。ということは

力と榮光の座に導く人物の前ぶれをとめたバプテスマヨハネに自分自身をなされた。彼が自らを睡ぶのに用いたことばは「ユーラー（獨裁）」だつた。

時間がたつにつれて、ヒトラーが自らを救世主へメシアだと考えてゐること、ドイツを榮光に導くよう定められていてきた。彼が聖書を引用する頻度は益々ふえ、宗教的な雰囲気を帯びるようになつた。キリストと自分自身を比較することも演説にも現われるようになつた。それがたび重なるようになり、それが金額から、巴拉ナ州・マツキグロツソ州にまでいる。将来は「ラジル綱糸」として柔軟性を延張し、遙くは巴拉グワイのとき、彼が國一化して描くキリストは福音とがたび重なるようになつた。十字架にかけられるキリストではなく、十字架に向むかふ、怒りに満ちて群衆をむちうつキリスト像だつた。

実際のところ、ヒトラーは十字架にかけられたキリストについて、ほどんど教会との関係はきっぱりと断つていていた。どうしたキリストは、ドイツ民族の救世主としては、柔和すぎ、虚弱にすぎ、不適当である。と彼は考えていたのである。

御案內

詳細後報

前略
秋尊御降誕花まつり灌仏御法要
奉讚演芸大会は次の様に営みます。御参詣下さる御案内申上げ
ます。

日時 五月二十七日午後一時から

卷之三十五

欽定四庫全書

奉讚演艺大会開幕

同朋錄開闢

芸術参加 フ・フルテンテ・アダ
マンチーナ・オ・クルス・ツバン
マリリア・各寺院の皆々様。現地
の個人・団体・楽団・日校帰人会

壳店 日校父兄会、伝教婦人会 以上

皆々 樣

バヌト又南米本願寺

トイツ民族にとつて、彼が不死不朽の存在となる必要があつた。ヒトラーの名譽のために、あらゆるもののが巨大で、ふさわしい記念碑とならねばならなかつた。彼が考えた永久建設、少くとも一千年はもちこたえるものでなければならなかつた。彼が建設させた「ヒトラー・ハイウェイ」は、ナポレオン道路よりも長期間もちこたえるはずのものであつた。ついに不可能なことを手がけ、その痕跡を国内に残すことが必要だつた。何世代にも亘り、ドイツ民族の中心に生きづけるためにはそれが必要だ、とヒトラーは考えたのである。